

土壌診断のご紹介

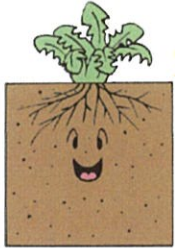
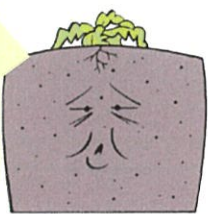
JA こまちでは水稲・畑作物の土壌診断に基づいた適正な施肥を推進しています。
 診断結果をもとに作物の収量安定、施肥コストの低減に取り組んでみませんか？

土壌診断をすると

土壌養分の過不足がわかり、作物の収量・品質が安定・向上します

基準より多い養分は減らし、少ない養分は増やすことで最適な土壌バランスに近づけることができ、作物の収量・品質が安定・向上します。

リン酸、カリなどの養分が蓄積した圃場では、せつかくの施肥も無駄になるし、作物の健康にも影響するんだ。



診断結果をもとに健康な土に生まれ変われば、施肥量を減らしても収量・品質はそのままか、それ以上に！

土づくり資材等の適切な投入量がわかり、施肥コストが減らせます！

土壌診断で資材の投入量がわかれば、ムダが省けその分だけ施肥コストを減らせます。

いやあ〜、助かります！

今日からPとKを少し減らしましょう



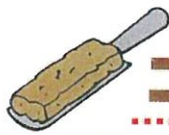
地球の環境保全に貢献します！

土壌診断お申込みの手順

- ① 別紙土壌サンプルの取り方を参考に土壌を採取します。
- ② 必要事項(圃場地番、作物名、前作作物名・連作年数、堆肥の種類・施用量、土壌の種類)を職員へ伝え土壌サンプルをお渡しください。
- ③ 米の繁忙期には職員の対応が難しい場合がありますので、11月を目安に申し込みください。

不明な点がありましたら担い手支援課か営農センターまで問い合わせください。



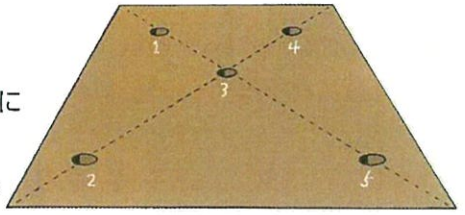


土壌サンプルの採り方

1 土を採る場所と時期

1

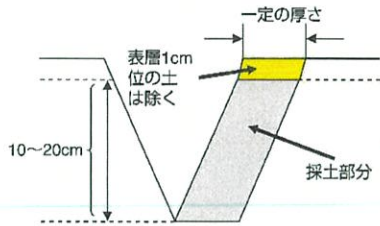
土のサンプルは中央と対角線の5カ所から採り、合わせて均一にしてください。
収穫後、次作の作業（耕起・施肥）に入る前に採取しましょう。



2 土の採り方

2

表土1cmぐらいを除いてから、深さ10～20cmの作土を移植ゴテで採ります。



3 採取した土を乾かす

3

採取した土は、新聞紙などの上に薄く広げ、風通しの良いところで1週間くらい乾燥させます。



4 乾かした土を篩がけする

4

乾燥させた土を2mmの目開きの篩に通して、細かい土を集めます。
篩の上に残った土は、軽く砕いて、また篩に通します。



5 サンプルを土壌採取袋に入れる

5

所定の土壌採取袋（封筒）に土のサンプルを入れ、必要事項を書き込んで、JAの担当職員へお渡しください。



診断結果が返ってきたら



JA職員は診断結果と一緒に「処方箋（施肥改善の提案）」をお届けしますが、処方箋の内容はあくまでも一つの目安です。

JAからの提案をベースに、圃場を一番知っているみなさんの知識をプラスして、それぞれの圃場に合う具体的な方法を一緒に考えていきます。